



首都大学東京 大学院 社会科学研究所



経営学演習 「企業倫理論」 # 6

§ 企業倫理と国際基準/ガイドライン §

- －企業倫理とHolistic Approach
- －分散から統合へ
- －企業から世界(地球の裏側)を俯瞰する

2014年5月23日

岡本 享二 (おかもと きょうじ)
ブレーメン・コンサルティング(株)

本日の講義のポイント

- ・ 現代の『企業倫理論』は、企業の実務を通して語らねばならない。
 - 従来の倫理学でいうところの「道徳や哲学をもって社会生活の拠り所とする」だけでは、こと足りない。近代企業をとりまく現代社会は、あまりにも複雑化、グローバル化してきている。
 - 企業活動と、その社会に与える影響(見えないところも含む)を考慮せずして、社員や、経営者の倫理観だけに頼ることはできない。
 - 企業経営の中に「企業倫理」「CSR経営」「環境経営」の精神と活動を内含する必要がある。
- ・ 近代、現代の倫理観を俯瞰するとともに、グローバル化のもと「地球の大自然」「途上国を代表する地球の裏側」にも配慮を巡らす必要がある。
 - 「江戸時代の生活、倫理観、商道徳など」「近代の倫理学の系譜」を学んできた。
 - 一方で、「現代の社会問題」をテーマごとに、受講生による発表を行った。
 - 企業の不祥事から問題点を学ぶとともに、従来から言われている解決策にプラスして「ホリスティック・マネジメント・システムの必要性」を提唱した。
- ・ 「企業倫理」と「CSR」を支援する国際的な基準とガイドラインについて学ぶ。
 - なぜ、これらの基準やガイドラインができたか、その背景を考える。
 - 第3回の講義で学んだ「世界の社会問題」との関連を考えてみる。
 - 併せて、これら国際基準やガイドラインそのものを評価してみよう。

受講生による課題発表

- Holistic Approachについて: 平松 秀郷
 - ・ 各種国際基準やガイドラインの統合的な適用事例
- グローバルコンパクト原則: 藤本 邦男
 - ・ グローバル企業として尊重すべき普遍的原則とは
- GRI: 松井 亮太
 - ・ 持続可能性報告の枠組みを示したガイドラインについて
- AA1000: 田中 良知
 - ・ 企業の説明責任を果たすためのプロセスを示したガイドライン
- ISO26000: 岩野 貢
 - ・ 社会的責任に関する国際ガイダンス規格の全貌
- IIRC: 堀米 淑江
 - ・ 統合報告の枠組みを示したガイドラインとは



Intentionally Blank
